News Release

2026 年 10 月 30 日

一般社団法人日本能率協会

第一線で活躍する建築家が選ぶ、優れた建材・設備製品

「みらいのたね賞」11 製品、「ゲスト選考賞」1 製品を決定

住宅･建築関連専門展示会「Japan Home Show ＆ Building Show 2026」で表彰･展示

一般社団法人日本能率協会（JMA、会長：中村正己）は、住宅・建築関連専門展示会「Japan Home Show ＆ Building Show」の公式アワードである**「みらいのたね賞」**の受賞製品として、「みらいのたね賞」11 製品と「ゲスト選考賞」1 製品を決定しました。受賞製品は、2026 年 11 月 18 日（水）から 20 日（金）まで東京ビッグサイトで開催する「Japan Home Show ＆ Building Show 2026」（以下、本展）の各受賞企業ブースに展示されます。

「みらいのたね賞」は、建築分野の第一線で活躍する選考員が、本展の出展製品を対象に、毎年設定するテーマに基づき、優れた建材・設備製品を選出しています。

今年は「『ものづくり』から始まる建築」をテーマに、選考メンバーの山代 悟氏、山本 想太郎氏に加え、ゲスト選考員として赤松 佳珠子氏（株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ代表取締役・法政大学デザイン工学部建築学科教授）の 3 名による選考を行い、本展出展製品約 300 製品の中から決定しました。

本展開催期間中、会場内では選考員によるトークセッション・表彰式（11 月 19 日）、選考員とともに受賞企業のブースをめぐる「みらいのたね賞ツアー」（11 月 18～20 日）を開催します。詳細は、公式サイト（https://www.jma.or.jp/homeshow/tokyo/）をご覧ください。

■**「みらいのたね賞」受賞製品（順不同・法人格省略）**※3～6 ページで製品詳細、選評を紹介

製品名	会社・団体名	ブース番号
WO Flooring/フローリング	ウッドワン	W3-F23
建設バーティカル AI　ANDPAD	アンドパッド	W1-S39
『Ki color』『Ki Art Tex』	カドワキカラーワークス	W3-D09
らくらくレベルバンド	タイガー産業	W1-D30
Base101 かんたん！す～と屋根®	丸由	W1-W26
サッシ取替戸車	ヨコヅナ	W1-U20
全自動消火装置 MY BUDDY（マイ・バディ）	新三平建設	W1-G32
E・V・A®ボード	東京ボード工業	W1-N26
はさまん	ヨウソロ	W1-J36
プルシェルター	TA フロンティア	W1-U27
24 時間換気給気口消音器「静換気」	大成建設/タイメック/みやちゅう	W1-R18

■**「ゲスト選考賞」受賞製品**　※6 ページで製品詳細、選評を紹介

製品名	会社・団体名	ブース番号
fabula	fabula	W3-F18

【展示会に関するお問い合わせ先】
一般社団法人日本能率協会 産業振興センター　小畑、谷澤、石郷岡
TEL：03-3434-1988　E-mail：jhbs@jma.or.jp

【報道関係の方のお問い合わせ先】
一般社団法人日本能率協会　マーケティングコミュニケーション室　平塚
TEL：03-3434-1377（土日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail：mkt-com@jma.or.jp

「みらいのたね賞」概要

「みらいのたね賞」は、優れた建築を生みだすことに貢献しうる優れた製品、未来への布石となる製品に贈られる賞です。一般社団法人 HEAD 研究会が 2011 年より開催してきた「HEAD ベストセレクション賞」を継承し、一般社団法人日本能率協会が「Japan Home Show & Building Show」の公式アワードとして 2017 年にスタートしました。2026 年で 10 回目を迎えます。

本賞は、同展示会の出展者を対象に、建築の実務に携わる選考員（選考メンバー2 名、ゲスト選考員 1 名）が設定されたテーマに基づき、毎年約 10 製品を「みらいのたね賞」として選出します。さらに、ゲスト選考員の視点や思想をもとに「ゲスト選考賞」1 製品を選出します。

1．選考方法

今年は「『ものづくり』から始まる建築」をテーマに、「Japan Home Show & Building Show 2026」出展製品 300 製品のなかから、1 次選考として選考員 2 名が 33 製品を選出、最終選考としてゲスト選考員を加えた 3 名で「みらいのたね賞」11 製品を決定しました。ゲスト選考員の視点から「ゲスト選考賞」1 製品を決定しました。

2．2026 年選考員

ゲスト選考員	
 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ代表取締役 法政大学デザイン工学部建築学科教授 赤松 佳珠子 氏	1990 年日本女子大学家政学部住居学科卒業後、シーラカンス（のちの C+A、CAt）に加わる。2002 年よりパートナー。 2013 年より法政大学デザイン工学部准教授、2016 年より同教授。現在、CAt パートナー、法政大学教授。主な作品に、流山市立おおたかの森小中学校（2015 年）、山元町役場（2019 年）、共愛学園前橋国際大学 5 号館（2021 年）、土生公民館（2021 年）、アグリカレッジ福島（2025 年）など。渋谷ストリーム（2019 年）のデザインアーキテクツを務める。 主な受賞に、2016 年日本建築学会賞（作品）、第 26 回村野藤吾賞、日本建築家協会賞、BCS 賞、他。
選考員	
 ビルディングランドスケープ共同主宰 / 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授 山代 悟氏	1969 年 島根県生まれ、1995 年 東京大学大学院修士課程修了。1995-2002 年 槇総合計画事務所、2002 年 ビルディングランドスケープ設立 共同主宰。2002 年-2007 年 東京大学大学院建築学専攻 助手、2007 年-2009 年 東京大学大学院建築学専攻 助教、2010 年-2018 年 大連理工大学 建築与芸術学院 客座教授、2017 年-2018 年 芝浦工業大学建築学部建築学科 特任教授、2018 年- 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授、「Slanting CAVE」で 2007 年東京建築賞 第 33 回建築作品コンクール 戸建住宅部門 最優秀賞、「みやむら動物病院」で 2016 年第 19 回木材活用コンクール 林野庁長官賞、2017 年東京建築賞一般一類 優秀賞、2019 年（平成 30 年）ウッドシティ TOKYO モデル建築賞 最優秀賞、「甲佐町住まいの復興拠点施設」でプロポーザル最優秀賞など。
 山本想太郎設計アトリエ 代表／HEAD 研究会 副理事長 山本 想太郎 氏	1966 年東京生まれ。1991 年早稲田大学大学院修了。1991～2003 年坂倉建築研究所勤務。2004 年山本想太郎設計アトリエ設立。現在、東洋大学・工学院大学・芝浦工業大学 非常勤講師。日本建築家協会デザイン部会長。HEAD 研究会理事。主な建築作品として、南洋堂ルーフラウンジ、日本橋大伝馬町プラザビル、来迎寺本堂・庫裏、妻有田中文男文庫、越後妻有清津倉庫美術館など。主な著書・訳書として、『現代住居コンセプション』（共著、INAX 出版）、『建築家を知る／建築家になる』（王国社）、『イラスト解剖図鑑 世界の遺跡と名建築』（監修・訳）など。主な受賞歴として、オーストラリア建築家協会賞、AACA 賞、東京建築賞など。

3．「みらいのたね賞」受賞製品（順不同・法人格省略）

「WO Flooring/フローリング」

ウッドワン（ブース番号:W3-F23）

上質で時代を超えて愛され、暮らすほど味わいを増す WO シリーズ。303×3,030mm のフローリングは継ぎ目を抑え、空間の広がりを演出します。四方の C 面加工で素材感を際立たせ、通常の約 5 倍の厚みの化粧単板にうづくり加工を施し、足裏に心地よい木目の凹凸を実現。素地を生かしたウレタン塗装により、上質な質感とお手入れのしやすさを兼ね備えています。



【選評】
非常に洗練された美しいデザインと幅広い品揃えは、本製品のまず大きな魅力です。しかし、本賞に選ばれた理由は、その美しさだけではありません。ニュージーランドで日本の企業がラジアータパインを植林・育林し、加工し、美しいデザインにまとめ、製品として施工者、そして生活者へと手渡していく。その一連のプロセスに、一貫して責任を持って取り組んでいる点が高く評価されました。木材の確かなトレーサビリティを確保し、その大切さを美しいデザインとともに届けている姿勢は、これからの木材利用のあり方を示すものです。まさに未来へとつながる「たね」と言える取り組みだと考えます。（山代悟）

「建設バーティカル AI　ANDPAD」

アンドパッド（ブース番号:W1-S39）

「ANDPAD」は現場の効率化から経営改善まで一元管理できるシェア No.1 クラウド型建設プロジェクト管理サービスです。利用社数 27.9 万社、ユーザー数 81.8 万人を超える業界最大級のデータが集まるプラットフォームとして、2025 年より建設業特化型 AI プロジェクト「ANDPAD Stellarc」を始動し、建設業 AI データプラットフォームとして建設業の AX を推進しています。

【選評】
施工管理の DX 導入による合理化、省力化は、現代日本において議論の余地のない必然といえるだろう。そのためのツールは業界のインフラともいえるものであり、最大級のシェアで業界を牽引する本製品の重要性は高い。また発売以降の 10 年間、労働基準の変化、人手不足、資材価格の高騰、BIM そして AI の進化などといった建設業界をとりまく環境の変化に積極的に対応し、施工会社の経営まで視野に入れた管理アプリとして進化しつづけてきたことも頼もしい。今では多くの競合製品もあり、それぞれの特徴によってさまざまな使い手に対応しているなかでも、機能やインターフェイスのスタンダードを示す製品としての役割をしっかり担い続けてほしい。（山本想太郎）

「『Ki color』『Ki Art Tex』」

カドワキカラーワークス（ブース番号:W3-D09）

住まいに命を吹き込む、至高の仕上がり。
粉体塗装ならではの厚い塗膜が織りなす表層表現。気品と気骨を建材に纏わせる『Ki color』。ヨーロッパを起源とするデコラティブペイント。陰影の美しさで室内を満たす『Ki Art Tex』。
地球と調和するカドワキの意匠性塗装を、是非その目で、その手でお確かめください。



【選評】
建築における「塗装」は、単に表面の見栄えを良くするためだけのものではなく、耐久性や耐食性、防汚性などといったさまざまな性能を担う機能材料でもあり、さらには安定した仕上がりを担保する施工性も求められる。そしてそういった多角的な品質が求められるがゆえに、一般的な建築塗装の意匠はある程度制約を受けざるをえない。そのようななかで本製品の、他とは違う塗装表現を提供するということに対する熱意と、それをバックアップする粉体塗装をはじめとした技術力は、塗装表現の豊かさを通して空間の質の多様性に直結するものとして、高く評価したい。これからもぜひ建築塗装の新たな可能性を追求し続けてほしい。（山本想太郎）

「らくらくレベルバンド」

タイガー産業（ブース番号：W1-D30）

新発想の配管支持具「らくらくレベルバンド」。
工具不要で支持部をスライドさせ高さ調整、ケーブルタイで固定するだけの簡単施工。スチールとポリカーボネート樹脂のハイブリッド構造により、高い強度を保ちながら従来品比約 30%の軽量化を実現。50A・75A 兼用で在庫管理も効率化。職人の負担と施工の手間を減らし、人手不足に応える省力化で、これからの建築現場を支えます。



【選評】
本製品は、一見しただけでは何に使うものか分かりにくいかもしれません。工事中の床下に排水などの配管を設置する際、これまではボルトとナットを回転させて高さを調整していましたが、本製品はプラスチックのボタンを押したり引いたりするだけで、繊細な高さ調整を行うことができます。調整作業の時間を半分程度に短縮できるほか、金属製の部品を樹脂製とすることで軽量化を実現し、輸送効率の向上や作業者の負担軽減にも大きく寄与します。文字通り床の仕上げの中に隠れてしまう「縁の下」の存在ですが、人手不足が深刻な現在、施工者の負担を大きく軽減するこうしたアプローチの製品が今後さらに充実していくことを期待し、選定しました。（山代悟）

「Base101 かんたん！す～と屋根®」

丸由（ブース番号：W1-W26）

仮設足場を活かして設置する、特許取得済みの簡易素屋根システム。遮熱シート下の温度は、直射日光下との差が実測で 15℃以上の遮熱効果を示し、猛暑・雨天対策により工期の安定化を実現。
導入することで熱中症リスクの軽減など職場環境の改善につながり、福利厚生の充実、建設業のイメージアップ、そして「安全で働きやすい現場」のアピールによる労働力確保にも役立ちます。



【選評】
冗談ではなく、地球が沸騰している。まさか日本で 40℃を超える日が来るとは思わなかった。長期化する酷暑のなか、建設現場の暑熱対策は深刻な課題となっている。そんな中、現場の作業エリアに日よけ・雨よけの環境をつくる、遮熱シートを用いた簡易な素屋根のシステムがあるという。暑さだけではない。今年、東京では 35 日間も雨が降り続き、多くの現場が影響を受けた。仮設足場を活用した丸パイプフレームによる軽量な構造で、2 人で 20～30 分程度で組み立てられ、開閉や収納も容易。天候の変化にも柔軟に対応できるという。気候変動が建設現場のあり方を変えつつある今、現場の切実な課題に応える、まさに救世主ともいえるアイデアだ。（赤松 佳珠子）

「サッシ取替戸車」

ヨコヅナ（ブース番号：W1-U20）

サッシ取替戸車は、既存のサッシに取り付けられた戸車を交換するための製品です。 戸車の摩耗や劣化によって重くなった引き戸の開閉をスムーズにし、快適な使い心地を取り戻します。さまざまな形状やサイズを取り揃え、用途やサッシの仕様に合わせた製品選びが可能です。
戸車を交換することで、サッシ全体を取り替えることなく、開閉の不具合を改善できます。



【選評】
住宅、マンションのリノベーション現場において、大きなテラス窓の戸車の調子が悪いというような事態に直面することは実に多い。しかし修理のためにサッシを取り外して工場に送ってしまえば、その間はそこで生活できなくなってしまう。つまりどれだけ簡単に、現場で素早く直せるかが極めて重要であり、それが、このような取り換え用の戸車が用意されていることの重要性である。さまざまなサッシや網戸に対応するバリエーションを揃え、同社はさらに特注にも対応している。見えないところで日常生活を支える戸車というパーツを長きにわたってつくり続けてきた、まさに縁の下の力持ちのメーカーならではの製品、サービスは間違いなく評価に値するだろう。（山本想太郎）

「全自動消火装置 MY BUDDY（マイ・バディ）」
新三平建設（ブース番号:W1-G32）

『マイ・バディ MB-2.0』は、火災の熱を感知すると自動で作動し初期消火を行う全自動消火装置です。火災を感知すると、加圧用ガス容器から約 10 気圧の圧力で消火薬剤を自動噴射します。人の手を介さず、全自動で初期消火を行います。大きな特徴は、配管・配線工事が不要なため、既存施設や既設物件に容易に設置できること。停電や断水時でも正常作動、災害時の初期消火対策として効果的です。



【選評】
まさか自分の家が火災に遭うとは、想像もしていない人が大半だろう。しかし、ひやっとした経験は誰にでもあるはずだ。ほんの少しの油断から、思わぬ事態が起こる可能性は日常のあちこちに潜んでいる。操作不要、メンテナンスフリー、電源も不要。熱を感知すると自動で作動し、わずか 5 秒で消火できるという。コンパクトな本体を天井裏に設置し、室内に見えるのはノズルと点検口だけという納まりもいい。一般住宅はもちろん、高齢の親が暮らす家や高齢者施設、飲食店、さらには火災の報道が絶えない神社仏閣にも活用が期待できる。万一に備えることを、特別なことではなく当たり前にする。そんな安心を社会に広げるためにも、ぜひ普及してほしい商品だ。（赤松 佳珠子）

「E・V・A®ボード」
東京ボード工業（ブース番号:W1-N26）

「E・V・A®ボード」は、建築・解体現場や物流廃パレット、製材端材など都市や産業から排出される木くずを 100%再資源化した環境配慮型パーティクルボードです。木材を燃やさず製品化するマテリアルリサイクルにより炭素を固定し、脱炭素へ貢献。
マンション二重床下地や耐力壁「壁武者」として幅広く採用され、国内外の EPD 環境認証も取得。確かな品質と環境価値を両立した循環型建材です。



【選評】
パーティクルボードは長く使われてきた木質建材ですが、無垢の製材と比べると人工的な印象があり、普段あまり注目していない方も多いかもしれません。しかし森林資源の流れを見ると、伐採した木材のうち製材やエンジニアードウッドとして利用される歩留まりは、3 割程度にとどまるケースも少なくありません。残りはバイオマス燃料などにも使われますが、パーティクルボードとして建材になり、炭素固定に有効に働くことは、もっと知られてよいと思います。その中でも本製品「エバーボード」は、建設廃材由来の木材を 100%使用している点に特徴があります。伐採から製材の過程で生じる端材の活用にとどまらず、一度建築として使われた木材をさらに生かすという点で、より意義深い取り組みとして評価しました。（山代悟）

「はさまん」
ヨウソロ（ブース番号:W1-J36）

吊元に指を挟まないドアです。ドアメーカー様に、特許技術を無償で提供します。 弊社は、専用ヒンジを提供します。
「はさまん」は、必ずドアの標準になります。
始めるのが早ければ早いほど、ひとり勝ちのチャンスがあります。



【選評】
小さな子どもにとって、何気ない日常にも思わぬ危険が潜んでいる。ドアの隙間に指を挟み、切断してしまう事故が年間 100 件もあるという。実物のサンプルを見て、なるほど、これなら指を挟まないと納得した。後付けの部品で対処するのではなく、ドアのデザインそのものによって危険を解決しているところがいい。しかも、安全性を声高に主張することなく、空間に自然に馴染んでいる。デザイン的にも、丸さが優しく穏やかな雰囲気を醸し出している。日常の風景を損なうことなく、子どもの安全をそっと守る。機能とデザインが無理なく一体となった、やさしさに溢れる素晴らしいプロダクトだと思う。（赤松 佳珠子）

「プルシェルター」

TA フロンティア（ブース番号:W1-U27）

安心安全な高齢社会へのインテリアの提案です。プルシェルターは耐熱性と難燃性の素材でできたファブリックです。初期消火と避難具にも活用できる防災推奨を受けた唯一のインテリア素材です。火災は、少しの油断からおきます。また地震大国日本において地震火災も心配です。室内火災で犠牲になる方の 70%は高齢者です。火災時の基本行動は初期消火です。普段使いなれている生活用品が消火器の様に活用できれば万一の時にも安心です。



【選評】

本製品は、普段はカーテンとして使用しながら、火災が発生しかかった際には引っ張るだけで容易に取り外し、カーテンを火にかぶせて消火できるというものです。 防炎性の高いカーテンはこれまでも数多くありましたが、消火に使えるだけの性能を備えたものは決して多くありません。
また、布地の開発にとどまらず、日常使いでは確実に固定されながら、引っ張った際にはすぐに外れるカーテンフックをセットで提案している点が大きな特徴です。さまざまな災害が起こる今日ですが、家庭の中で起こる危険のうち、火災への備えは非常に大きな位置を占めています。住まいや施設での人々の暮らしに直結する、優れた製品として高く評価しました。（山代悟）

「24 時間換気給気口消音器「静換気」」

大成建設/タイメック/みやちゅう（ブース番号:W1-R18）

開けたままにする必要がある給気口は、住まいの防音の盲点です。
「静換気」は、第三種換気の給気口に室内側から差し込むだけの消音器。 サイレンサー・共鳴・吸音の 3 つの効果で、鉄道や車、人の声など幅広い騒音を抑え、遮音等級 T-2 相当（100φ 用）を実現しました。
従来の防音ベントキャップより通気性に優れ、外から見えないため外観デザインも自由です。
新築・リフォームを問わず、DIY でも簡単に設置できます。



【選評】

都市部の居住空間において、外部騒音の遮蔽性能がかなり決定的な品質要素となることは多い。その点で鉄筋コンクリート造のマンションや住宅は優れた性能を発揮するのだが、そのときに第三種換気用の給気口スリーブは大きな弱点となってしまう。この抜け穴を、換気性能を落とさずに音だけ通さないようにできるか、という難題に挑み、既存の給気口にも挿入できるユニットとして提供するのがこの製品である。まさにこれが欲しかった！という人は、私を含め結構いるのではないだろうか。ユーザー視点の着眼点も素晴らしいが、それをしっかり実現までもっていく探究心と開発力が、二年連続での本賞受賞に結実したといえるだろう。（山本想太郎）

4.「ゲスト選考賞」受賞製品

「fabula」 **fabula**（ブース番号:W3-F18）	
fabula は、食品廃棄物からつくる建材です。 東京大学発の技術で、乾燥・粉砕した原料を金型に入れ、熱と圧力だけで成形します。 接着剤や樹脂は使いません。白菜の葉からつくった素材は、無筋コンクリートの約 4 倍の曲げ強度を持ちます。 コーヒーかすや茶葉、卵殻など 100 種類以上の原料に対応し、 原料ごとの色や香りがそのまま残ります。 万博のギャラリーをはじめ、店舗やオフィスのサイン、什器、壁面タイルに使われています。 	【選評】 規格外の野菜や加工時に出る端材など、ゴミと呼ぶには気が引ける食品廃棄物が、日々大量に発生している。スーパーでは食品の値段にため息をつく人が多いというのに、だ。そうした食品廃棄物を乾燥・粉末化し、新たな素材を生み出す技術があるという。実際に触れてみると、どこか温かく、優しい手触りが印象的だった。しかも、厚さ 5mm で 30kg の荷重に耐え、将来的には建材への活用も期待できるという。廃棄物を資源へと転換するこの技術は、単なる素材開発にとどまらず、これからのものづくりや資源循環のあり方を変える可能性を秘めている。まさに未来に向けた大きな「たね」。数年後、思いもよらない花が咲き、百花繚乱の風景が広がることを期待したい。（赤松 佳珠子）

5．「みらいのたね賞 2026 開催記念　選考員スペシャルトーク」開催概要

開催日時：2026 年 11 月 19 日（木）14:10～15:05

会場：　講演会 2　西 3 ホール

登壇者：赤松 佳珠子氏、山代 悟氏、山本 想太郎氏

参加方法：事前申し込み制（無料）。下記からお申し込みください。

https://www.jma.or.jp/homeshow/visit/index.html#seminar-program

6．「みらいのたね賞ツアー」開催概要

選考員とともに、今年の受賞企業のブースをめぐるツアーを実施します。

業界のトレンドや隠れた名品に出会える貴重な機会です。

開催日時：2026 年 11 月 18 日（水）11：00～12：15

同行者：山本 想太郎氏

11 月 19 日（木）15：10～16：25

同行者：赤松 佳珠子氏、山代 悟氏、山本 想太郎氏

11 月 20 日（金）14：20～15：35

同行者：山本 想太郎氏

※同行者はいずれも予定

参加方法：事前申し込み制（無料）。下記からお申込みください。

https://www.jma.or.jp/homeshow/visit/index.html#seminar-program

「Japan Home Show ＆ Building Show 2026 開催概要

総　　称：Japan Home Show ＆ Building Show 2026
主　　催：一般社団法人日本能率協会
共　　催：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会／一般社団法人リビングアメニティ協会／一般社団法人住宅生産団体連合会／公益社団法人日本建築家協会
後　　援：外務省／経済産業省／国土交通省／林野庁／独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）／独立行政法人住宅金融支援機構（順不同）
協　　賛：関連 38 団体
会　　場：東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）　西展示棟
会　　期：2026 年 11 月 18 日（水）～20 日（金）　9:30～17:00
出展規模：約 600 社/1200 ブース（建築インテリア WEEK 合計）　※共同出展者含む
公式サイト：https://www.jma.or.jp/homeshow/tokyo
来場方法：https://www.event-cross.com/autumn/jp_jhbs/registration.php
　　から事前登録をお願いします
来場予定者数：約 26,000 人（同時開催展含む）
同時開催：JAPANTEX 2026／第 11 回アジア・ファニシング・フェア 2026／
　　ビルメンヒューマンフェア＆クリーン EXPO 2026／HOSPEX Japan

プレス登録(取材のお申し込み)のご案内

取材にあたってはプレス登録が必要です。円滑な入場手続きのため、事前のプレス登録へのご協力をお願いします。

※プレス登録いただいた方には、「プレスバッジ」「取材に際してのお願い」をお渡しします。

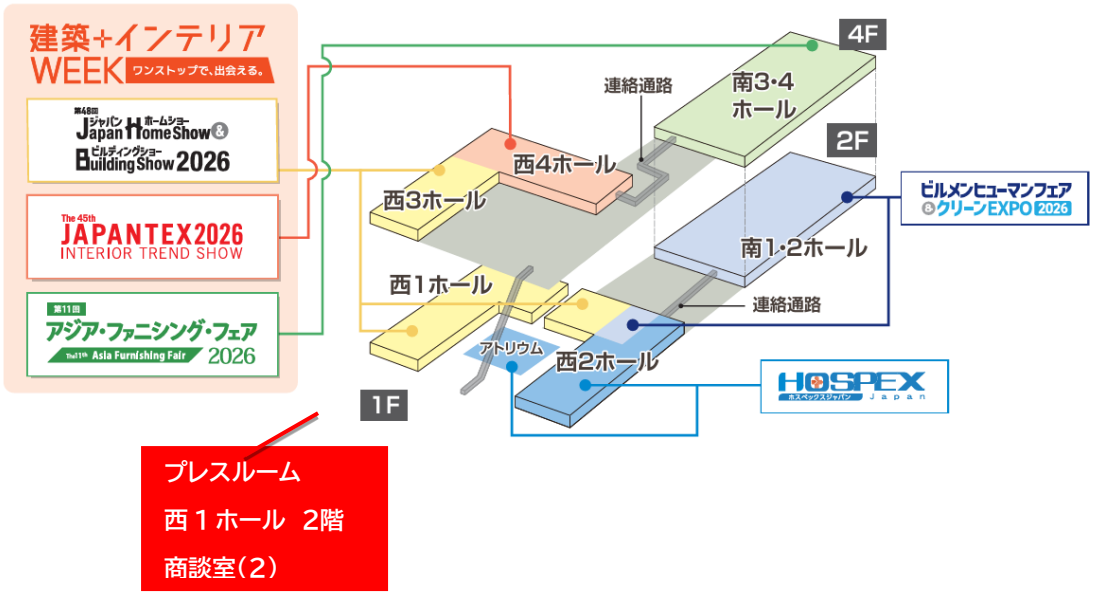
事前登録：「取材お申込みフォーム」からご登録ください。

https://forms.gle/f9jrxYgwgyJY1oQY9

『事前登録いただいた際の返信メール』のプリントアウトとお名刺 2 枚をご用意の上、「プレス受付」にお越しください。

■プレス受付（プレスルーム）の開設日時、場所

開設日時	2026年 11 月 18 日(水)～11 月 20 日(金) 9:30～17:00
場所	西展示棟1ホール2F:西1商談室(2)プレスルーム



当日、取材に関するお問い合わせがございましたら、プレスルームにお立ち寄りください。

※プレス登録は、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、Web 媒体などの取材／編集／報道に関わる方が対象です。報道機関の広告・営業部門、広告代理店、マーケティングリサーチ会社の方はご遠慮いただいております(上記の方は、一般登録でご入場いただけます)。
ご理解の程、よろしくお願い申しあげます。

◆講演・セミナーをご取材される際のお願い

取材される場合は、対象者の了解のもと行ってください。
講演に使用された投影パワーポイント、配布資料およびテキストなどの無断転載は固くお断りいたします。
講演内容を掲載する場合は、必ず講演者に許可を得てください。ご協力のほど、よろしくお願い申しあげます。